

---

# バカと真面目と召喚獣

いいですとも

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと真面目と召喚獣

### 【Nコード】

N2045Y

### 【作者名】

いいですとも

### 【あらすじ】

文月学園の生徒である金城香奈は、体調不良でFクラスになってしまった！？

友達思いな香奈は、仲の良いバカな友人達が起こす騒動に巻き込まれる！

香奈は平穏な学園生活を過ごすことが出来るのか！

## 坂道と桜並木とプロローグ（前書き）

読んでくださる皆様、見苦しいかもしれませんが、どうぞよろしく  
お願いします！

## 坂道と桜並木とプロローグ

校舎へと繋がる坂道

その両脇を彩る春を感じさせる桜

初めて見た者なら誰もが足を止め、そして嘆息するだろう

その坂道を、息を切らしながら、全速力で駆け上っていく少女がいた

彼女は特に目立つところはなく、しかしとても整った容姿をしていた

彼女の名は金城香奈

香奈は、坂道を登った先にある学校の生徒である

文月学園

それは坂道を登った先にある、とても特殊な学校だ

新設校にして、現在世間で最も話題を呼ぶ新技術“試験召喚システム”の試験採用校

学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こし、進学校であると同時に最新技術の実験場としても知られるこの学園

それ故に、多くのスポンサーが付いており学費は極めて安い

そんな学校に通う香奈は、坂道を登りきり、校門の前に立つ教師に挨拶をする

「西村先生、おはようございます。すみません、遅れました」

「ふむ、金城が遅刻とは珍しいな。何かあったか？」

「家に筆記用具を忘れてしまいました…」

「なるほど。次からは忘れ物をしないようにな。」

「はい！」

会話から分かるように、香奈は教師から信頼されているようだ。

「あ、西村先生！おっはようございまーす！」

「遅刻だ馬鹿者」

…後ろの学園一のバカと違つて

「吉井、遅刻だよ…」

「あれ、金城？金城が遅刻するなんて珍しいなあ」

「うん、今日はちよつとね…」「ふうん…」明久と香奈は一年の時から交流があり、とても仲が良い

その為か、吉井の成績は昔より良くなっている

「ほら、二人共受け取れ」

そう言つて西村が差し出したのは、二つの茶封筒

「ああ、僕は大丈夫ですよ！どうせFクラスでしたし！」

「そんなことないよ…巻き込んだじゃつてごめんね…」

香奈はクラス分けの試験の日、体調が悪く途中で倒れてしまった  
明久は倒れた香奈を保健室に連れて行く為途中退室。結果二人は全  
教科0点になりFクラス入りが確定となつてしまった

「謝らないでよ、自分の意志でやつたんだから」

「でも、今の吉井ならきつとDクラスには…」

「そんなの過大評価だし自分の意志でやつたつて言ってるじゃん！  
金城だつて前日に、僕に勉強を教えてなきゃCクラスにイケたかも  
しないんだから！」

「そんな…」

「金城だつて僕を責めないでしょ！？僕も金城を責めない！だから、

金城も自分を責めないで！」

「うん…分かった！」

明久はとても優しい男だ。だから人が寄ってくる

明久はとても強い男だ。だから意志が固い

明久はとても弱い男だ。だから人の気持ち分かる

バカだが、こんな明久だからこそ、香奈を励ますことが出来たのだ

「二人共遅刻だ！走って教室まで行け！」

西村の声が響く

『はい！』

二人の重なった声が響く

二人が消えた校舎を見ながら西村が呟く

「頑張れよ、二人共…」

西村の小さな声は、春の微風にかき消された

## 坂道と桜並木とプロローグ（後書き）

楽しんで頂けましたか？

出来れば感想よろしくお願いします！

批判も受け付けています！

これからもどうぞよろしくお願いします！

## バカと仲間とFクラス（前書き）

すみません、島田アンチです…

## バカと仲間とFクラス

「うわ…。これが教室…？」

「凄いねえ…」

二人は思わず足を止める

それもそのはず、彼らが見ているのはAクラスだ  
Aクラスは設備が充実していて、教室というより、ホテルという方がしっくりくるぐらいである

目眩を覚える程の教室だ

「あれはシステムデスク…。あれは個人クーラー…」

「吉井、あれつてもしかして冷蔵庫…？」

「もしかしくなくても冷蔵庫だよ…」

「しかもあの人たち…。あれを当然の様に扱ってる…」

「仕方がないよ…。社会じゃ、成績が全てなんだし…」

「…もう行こ！なんか気分悪くなってきた！」

「だね」

返事をしながら明久は、思わず苦笑いを浮かべていた

「うわ…。これが教室…？」

「凄いねえ…」

思わず、先程と同じ言葉を吐いてしまっくらい衝撃的な教室がそこにはあった

それもそのはず、彼らが見ているのはFクラスだ  
思わず目を覆いたくなるほど汚い外観

さらに少し異臭がする

違う意味で目眩を覚える程の教室だ

「なんか違う意味で気分悪い！」

「もういいや…。さっさと入ろう？」

「うん」

そして明久は異臭のする戸を開ける

「すみません、遅れちゃいました」

「ん？明久。お前Fクラスなのか？」

「あれ、雄二？雄二もFクラスなの？」

「おうそうだ。点数をちょっと調整してな。俺はこのFクラスの代表だ。」

「へえ、そうなんだ。」

明久の後ろから、ひょいと出てきた香奈が口を挟む

「坂本…何が目的？」

「うお！金城！？なんでここに！」「Fクラスだからだよ…。ちょっと体調が悪くてね…。それで明久も…」

「ああ分かった…それ以上言わなくて良い」

「うん…」

雄二は何があつたかを察し、香奈にそれ以上を言わせなかった

「それはそうとして。本当になんでFクラスに。しかも面倒くさそうな代表に。」

明久の問いに雄二は口元を釣り上げる

「そりゃあ代表って言ったら、一つしかないだろ」

「やるの？坂本。試験召喚戦争を」

「ああ勿論だ！」

試験召喚戦争。通称、試召戦争

試召戦争とは要するに、設備を賭けた、成績で戦う成績である上位クラスが下位クラスに負ければ、設備を入れ替えることになる  
また、下位クラスが上位クラスに負ければ設備を一段階落とされることになる生徒たちはより良い設備を求め、成績を向上する  
それが文月学園の試召戦争の目的である

「まあそれは後で聞くよ。雄二、席は決められてるの？」

「いや、自由席だ」

「じゃあ吉井！あっちに座ろっ」

「はいはい」

「さて、じゃあ俺もそろそろ座るかな。明久、隣良いか？」

「良いよー」

「いや金城が答えないでよ。別に良いけど」

三人が席についてすぐに、教室の戸が開いた

「えー、おはようございます。Fクラスの担任を務めます…」

担任らしい教師は、薄汚れた黒板に視線をやり手を伸ばそうとして  
…視線を皆の方に戻した。

「福原慎です。よろしくお願いします」

その光景を見て明久たちは驚愕する

「おいおい、チョークすらないのかよ」

「ここまで酷いとは…」

「諦めるしかないよ…」

「皆さん全員に、卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があれば、申し出てください」

「むしろ不備しかないだろ…」「しっ！」

「俺の座布団、綿が入ってないんですけど」

「我慢してください」

「俺の卓袱台、脚が折れてます」「木工ボンドが支給されてるので、後で自分で直してください」

「窓が割れてて、隙間風が寒いんですけど」

「ビニール袋とセロハンテープを申請しておきますので、後で直してください」

「学校の悪意が見えるよ…」

「ここまで差別されるとなんか…」

「気持ち悪い…」

この学校の圧倒的な学歴主義に香奈は嫌悪感を催す

「では必要なものがあつたら、極力自分で調達する様にしてください。それでは、自己紹介をお願いします。そうですね、廊下側の人からお願いします」

福原の言つとおり、廊下側の一番最後に座っている生徒が立ち上がった

「木下秀吉じゃ、演劇部に所属してある。今年1年、よろしく頼むぞい」

「あ、秀吉だ」

「こいつも使えそうだな」

「坂本…凄く悪そうな顔してるよ…」

秀吉は男とは思えない程の可憐な姿をしている  
秀吉も一年の時から明久たちと交流があり仲が良い

「……土屋康太」

康太は全体的な成績は悪いが、保健だけは他者の追隨を許さず、保健の成績は学年で一位を欲しいままにしている  
彼もまた、一年の時から明久たちと仲が良い

「ムツツリーニもだ…」

「こいつもまた…」

「坂本…」

「でもやっぱり女子がないねえ」

「もしかして、女子は私一人…？」

「おい、ちょっと待て。次は女子みただぞ」

「……です。海外育ちで日本語は会話ができるけど、読み書きが苦手です。あ、でも英語も苦手です。育ちはドイツだったので。趣味は……」

とある女子は一旦区切り、明久をちらりと見てから一言。

「吉井明久を殴る事です」

「し、島田さん…」

彼女の名前は島田美波

一年の時から明久たちと交流があり仲が良い  
ある一名を除いて…

「ハロー」

「ははっ…」

明久は不吉な言葉に背筋を凍らせていた  
隣で雄二は苦笑い

そして香奈は怒りに震えていた

そして香奈の出番が回ってきた

「金城香奈です。趣味は色々、特技も色々。嫌いなことは差別、嫌いな物は爬虫類、嫌いな者は暴力を振るう人です。」

香奈は美波を睨みながら、そう言い放った

## バカと仲間とFクラス（後書き）

これからも頑張りますので、よろしくお願いします！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2045y/>

---

バカと真面目と召喚獣

2011年11月4日06時06分発行